

経営理念：利用者『最善の利益』を図り、地域の福祉に貢献する

保育の 1. 子どもの人格・人権を尊重し、一人ひとりの思いを大切にします 2. 子どもの発達に即した援助・保育をします

方針 3. 子どもが安心して過ごせる生活の場にします

保育目標 ◆じょうぶな身体（健康）◆たしかな考え（理性・認識）◆ゆたかな心（感性・情緒）◆よき仲間（協調性・社会性）

園だより

2023. 6. 6 文責：榎並 理恵



言葉について考える

～自分で考える子どもに～

紫、青、ピンクと紫陽花が色とりどりの花を咲かせて私達の目を楽しませてくれています。6月は旧暦で「水無月」とも言います。梅雨なのに“水が無い”と書くのは不思議ですが、この場合の「無」は無いという意味ではなくて「の」という意味合いで使われているようです。子ども達には「6月は水の月なんだよ」と教え、自然の摂理を伝えていきたいと思います。雨が降ると室内での活動が多くなりますが、出来る限り、子ども達が身体を動かしこの時期ならではの遊びを体感してほしいと思います。

今月は言葉について考えてみました。相手の事を「お前」と呼んだり、「バカ」「うざい」等、相手を侮る言葉を使ったり、また「死ね」「殺す」等、絶対、使ってほしくない言葉を耳にして子ども達の乱暴な言葉遣いに悩んだ事、ありませんか？私自身も子どもの言葉遣いには悩み、我が子に限って・・・こんな言葉、家で使わないのに・・・と自分の子育てを嘆き悲しみ自分を責めた経験があります。子ども達は成長するにつれて多くの言葉を獲得していきます。乳幼児期は言語に限らず新しい事をどんどん覚えていく時期です。良い言葉、悪い言葉に限らず新たに吸収した知識を活用してみたいと思うのは悪いことではないと思います。テレビやゲーム、ユーチューブ・・・今の時代、情報が色々なところから入ってきます。子ども達も自然と色々な言葉を耳にしていると思います。外部からの色々な情報、知識を得て日々、成長している証です。新しい言葉を使うのは楽しい、身近に使っているから悪い言葉という認識がなく、表現の仕方が分からず相手に正しく伝えられないだけなのではと思います。「死ね」や「ぶっ殺す」という言葉も人の死自体がまだ分からないままに使っていると思います。子どもがどうしてそんな言葉を使ったのか、子どもの考えを聞いてみる、そんな言葉を使ったらダメと頭ごなしに注意するのではなく、子ども自身に考えさせてみる事、そしてどうしてそういう言葉を使ったらダメなのかという理由を教えていく事が大事ではないかと思います。遠回りのようでもプラスの関わりを増やしていく事が子どもの成長には欠かせないものだと思います。悪い言葉だけが大きくなってしまいましたが子ども達の言葉にキュンとしたり勇気を貰う事も多いです。子ども達って本当に純粋で素直で一人ひとりがかけがえのない存在です。子は宝と昔の人が良く言いますが本当に宝物です。子ども達の今を大切にしっかりと向き合って毎日の保育に努めて参ります。

●お知らせ●

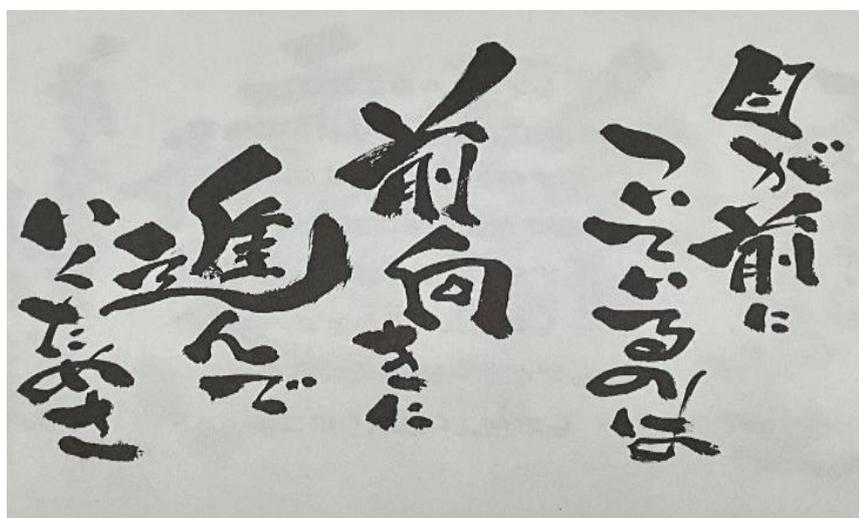
※暑くなってくると股付きサンダルで登園してくる子どもさんも多いです。その際、置き靴を1足、準備して下さい。(散歩や畑に出掛けたりします。)

※薄手の長袖、長ズボンも1組は入れて下さい。(虫刺され予防の為です)

●6月の予定●

6日(火)小運動会 13日(火)誕生会 14日(水)お弁当の日(一品料理食材:じゃが芋・豆類)
22日(水)ピーマン狩り(5歳児のみ) 23日(金)クッキング

❖詩を紹介します❖



前向きに生きるとは

前向きに生きなきゃ！と考えて
後悔している自分を くよくよ悔いることではない

目の前の人を笑わせること
目の前の人に向き合うことに
ただただ全力になればいい

そうすれば自然と前向きになれるから
そのためにあなたの目は前についているのだから

苦情・相談解決制度 本園の保育や処遇等に意見・要望がありましたら、ご遠慮なく申し出て下さい。

受付担当者 主任保育士 榎並理恵

解決 責任者 園長 中根 賢誠

第三者委員 丸田 瑞穂(099-482-2927) 横峯 友里子(099-474-1506) 山口 和美(090-5473-5866)